

《京都》御所と離宮の栞

しおり



其の二

— 京都御所 —

しころ
紫宸殿の鑊屋根



紫宸殿正面(南庭側)



紫宸殿北側

内裏の正殿である紫宸殿は、東西約33メートル、南北約23メートル(簀の子縁を除く)、屋根は東西約44メートル、南北33メートルにも及ぶ大きな建物で、即位礼をはじめとする儀式に使われました。正面中央に十八段の階段があり、その東に左近の桜、西に右近の橘が植えられています。

紫宸殿の屋根は、桧皮葺きで入母屋造りですが、よく見ると途中で段差がついて

います。この屋根形状はかぶと 兜などのしころ 鑊(兜の左右と後方に垂らす首の防御の部分)

が付いているのに似ていることから「しころ 鑊屋根」とよばれています。珍しい形式ですが、古い例では法隆寺の玉虫厨子があります。

屋根には五本の縦筋が見えます(左記写真参照)が、屋根上で作業する時に使用する力鎖と、雷を受けたときに電流を流すためのアース線がここにありま

外 マークは、御所・離宮の外側から、いつでもご覧になれます。

観 マークは、参観でご覧になれます。申込み方法は、[参観要領 - 京都御所 \(kunaicho.go.jp\)](http://kunaicho.go.jp) をご覧ください。

殿 マークは、春と秋には申込みが必要のない一般公開の際にご覧になれます。下記にて日程等をご確認ください。特別公開など - [宮内庁 \(kunaicho.go.jp\)](http://kunaicho.go.jp)

内 マークは、通常公開していない場所にあります。